

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202296		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム胡桃		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町4522		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成29年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 29 年 1 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域の方々の支援、ご理解、ご協力を頂き、消防訓練、夏祭り、餅つきと沢山の方々に参加して頂いております。当事業所も町内の行事に出来るだけ参加するように心がけております。地域の一員として受け入れて頂いてる事に、感謝し、これからも日常的に交流を深めていきたいと思っております。職員も明るく元気な方ばかりで、笑顔と笑いの絶えないアットホームな事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者、統括、管理者、ベテラン職員、経験の浅い職員同志の関係性が良好で信頼感に溢れており、様々な支援の場面で入居者中心の対応を全職員で協議し、必要に応じた柔軟な対応が行われている。ホームの立地場所は住宅密集地にあり、草刈り、溝掃除、消防訓練等を通じ地域との協力関係があり、ホームと地域住民双方がなくてはならないような関係性を構築されていることが窺える。又、法人内には有料老人ホーム、複合型サービス等があり、入居者、家族の希望や状況により柔軟に対応されていることが窺え、家族の安心感にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループホーム胡桃

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日を楽しく明るく元気よく、地域の方と共に、喜びを提供します。」を理念とし、地域の方交流や個々に合った生活を提供するよう心がけております。	開設当初に作成した理念を掲げ、実践に当っては入居者を中心に考え職員が寄り添いながら支援されており、地域住民との玄関前での交流もあり和気藹々とした雰囲気の中で支援が行われていることが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会に加入しており、散歩にでかけた際には地域の方と挨拶や話したり、毎年夏祭りや餅つき、消防訓練などの行事を行い、地域の方々と交流しております。	地域主催の敬老会、運動会への参加、ホーム行事への参加案内等各種行事を通じ交流されている。今後、ホームが有する各種知識を講演会等を通じ情報提供を検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練に地域の方に参加して頂き、避難訓練や消火訓練、通報訓練を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から行事や活動報告、利用者・職員の近況報告を行い、地域から2名、包括から1名、ご家族様代表1名参加して頂き、意見交換を行っています。	議題はその時節に応じた話を随時考えて話合っている。ホーム傍の河川について災害時のリスク回避の為、行政に草刈りを要望する案が出て近々実現する等、会議は有意義な話し合いの場となっている。	議題について年間計画を立て季節毎のテーマ設定や講師依頼等で、より活性化した会議が行えると考えます。又、来所の難しい遠隔地家族への議事録送付も含め検討をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時に担当者へ利用者の状況報告や暮らしぶりを伝え連携を深めております。包括より運営推進会議に出席して頂いたり、包括主催の研修会へも積極的に参加しております。	行政窓口へは各種報告の他、生活保護該当者に対する連絡訪問も行われるなど、連携が図られている。又、管理者は包括支援センターの勉強会へも参加し、各方面の方々と交流されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠解除し、職員で連携して見守りを行っています。身体拘束は基本しない方向でケアに取り組んでおりますが以前は転落、転倒の危険が著明な方に関して、家族様に同意書を頂き、ベッド柵使用の時期もありましたが、現在は解除しております。	問題行動のある入居者に対しては見守りによる対応がなされている。危険回避上、夜間帯のセンサー使用については家族へ電話にて説明し同意を得ている。今後はプランに入れる等記録の必要性を提案する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会の定期研修会に参加したり、施設内で不適切な声掛けや言葉遣いがみられた時は職員で話し合う場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要なケースは管理者が対応する事となっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等の際は時間をとり丁寧に説明をするようにしております。利用料金、その他の料金についても管理者が説明を行い、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には月1回お便りを郵送し、施設へ来所の際にはお話し、何でも言って頂けるような雰囲気作りをしております。また運営推進会議へもご家族様代表としてお一人の方の参加して頂き、意見、要望を聞いております。	入所時に各種相談窓口について説明すると共に玄関入口に意見箱を設置している。家族来所時等で話合う機会があり、最近の事例として空気清浄機設置の要望を受け現在、購入する準備段階である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を行い、代表者、統括部長、介護支援専門員の出席のもと、職員の意見、要望を言えるようにしております。	会議の他、管理者の側から積極的に話しかけ意見要望など聴き取っている。現在職場の雰囲気も良く、入居者への見守りの為、台所の壁面一部をくり抜いてほしいとの要望があり、実現を見る等支援に活かされている。	会議に不参加の職員への議事録の確認徹底については、リスク回避の為に目視確認が出来る方法(押印、レ点チェック等)が必要と考えます。ご検討をお願いします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けての支援を行っておられます。次世代育成支援対策に力を入れられ、社内保育所、男性職員の育児休暇を推進しH28、4/20に子育てサポート企業として認定されました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、グループホーム連絡協議会で行われる研修参加の情報収集提示し、多くの職員が参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修の中で、グループワークが多く行われ、その中での情報交換を行っています。実務者研修・実践者研修へ参加の職員は其中で交流や情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメント、利用者の不安を理解、把握し、要望をお聞きしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、どのような対応が出来るか事前に話し合いを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に対応が必要な相談者には可能な対応を柔軟に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より労りや励ましの言葉を頂く場面もあり、職員も利用者を人生の先輩として、協力し合いながら穏やかな生活が送れるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは施設での生活の一場面をお便りや写真にてお知らせし、施設での行事への参加の声掛けを行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族対応にて買い物や食事、ドライブ、美容室で出かけられたり、ご家族様以外の面会も見られ、馴染みの関係維持に努めております。	本人及び家族聴き取り、面会簿等で把握した情報を業務日誌、日報に記録し、職員間で共有し支援に役立てるよう努められている。法事、結婚式等の家族行事へも家族の協力の下に支援されていることが窺える。	業務日誌等で共有した情報の全職員への周知方法についてはサイン、押印等で明確にする必要性を感じます。ご検討をお願いします。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が連携し、情報を共有出来るようにしている。利用者同士の交流は活発に行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院へ移られた利用者のご家族様より相談があった場合は対応し、支援に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛け、把握に努めており、言葉や表情からその真意さし測ったり、その都度話を傾聴しております。必要性がある時はベッドや居室の入れ替えを行っております。	意思表示の難しい入居者に対しては声掛け時の表情、視線、動作などを観察し、想いを汲み取って支援中である。1階居室は目が届きにくい為、退所者があった時に重度化した入居者を2階居室へ移動する等、入居者中心の対応がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者をはじめご家族様や地域の方の力をお借りし、継続的に行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、生活・心理面の視点や出来ない事より出来る事に着目し、その人全体の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見交換やモニタリングやカンファレンスを定期的に行っております。また毎日の業務や利用者の事で伝達が必要な時は申し送りノートやホワイトボードを使用して確実に伝達するよう心がけております。	入居者毎の担当職員がモニタリングを行い、全職員参加で評価し計画作成責任者がプランを作成している。プランの内容毎に番号を付し、日々の実施記録に記入しており、支援上把握しやすい内容となっていることが窺える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事摂取量、水分量、排泄記録、血圧等の身体的状況及び日々の暮らしやエピソードを記録しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院の送迎等の必要な支援はその都度柔軟に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で生活を続けられる様民生委員さんや区長さんと意見交換する機会を設けております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望するかかりつけ医となっております。受診や往診は利用者やご家族の希望に応じて、対応しております。現在は大半の利用者が週1回の往診で対応しております。	現在、入居者全員かかりつけ医受診で定期的な往診が行われている。歯科、皮膚科も必要時に随時往診があつている。夜間も含め緊急時は提携医の指示を受け対応されている。受診時は職員又はケアマネージャーが同行し、家族へは電話にて報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さない様、早期発見に取り組んでいる。変化があれば、主治医へ連絡し、指示をお仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者への支援方針に関する情報を医療機関へ提出し、「ご家族とも」、回復状況の情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族の意向を踏まえ職員が連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるよう、協力医との連携も密にして取り組むよう心がけております。	簡単な看取りの説明は契約時に行っており、重度化した場合に再度話し合い、同意書を得ている。指針、同意書は同一法人別事業所で作成分を一部変更し使用予定であるが現在、対象者はおられない。緊急時の連絡網は一覧表にて職員へ周知されている。今後、研修受講の必要性を提案する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の方法を大きく掲載したり、施設内外の研修等に参加しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に1回消防署立ち合いの元、地域の方々の協力を得て、避難訓練を行っています。その他に年に数回施設内での自主訓練を行っています。入居者一覧表や備蓄品の持出等の準備しております。	毎年1回は、消防署立会いで訓練を実施中であり、他に地域住民参加の訓練も行われており多い時は10名ほどが参加されており、協力体制ができています。緊急持出し用の入居者情報ファイルも顔写真添付で作成されており、対応マニュアルも作成済みである。	備蓄については、飲料水を含め最低3日分以上の確保が必要と思われます。又、保管場所も一か所集中が望ましく、併せて検討をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な際もまず、利用者の気持ちを考え、さりげないケアを心がけております。また、研修とうへも参加し、他の施設での声掛け等も参考にさせて頂いております。	職員はグループホーム連絡協議会主催のプライバシーに関する研修に参加されており、法人内の研修にも参加中で意識は高い。入居者の声掛けはプライバシーを尊重しつつも親しみのある声掛けが行われ、居室入室時も適切な対応である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、利用者の表情や反応を注意深く見守り、自己決定出来るよう心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけており、様子を見ながら利用者の希望を尋ね過ぎて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の馴染みの美容室に出かけられたり、希望で施設に美容室より来て頂き、カット、パーマをして頂いております。また予算の関係で、ヘアーカラーは市販を購入し、職員が実施しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな物をお聞きし、メニューに入れたり楽しく食事が出来る雰囲気作りを大切にしております。配膳や下膳のお手伝いをして頂いております。また外食や戸外での食事も年に数回実施しております。	旬の食材を仕入れ、献立はその都度調理担当職員が材料に合わせ、視覚、味覚等を考慮しながら作成されている。昨年食事アンケートを実施し、希望等を把握されており入居者誕生日の献立等に活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調と摂取量を把握し、食事量も合わせて確認するようにしている。健康状態や口腔内の状態に応じて刻みやトロミ食の提供を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の管理、手入れを確実に出来る支援を行っております。毎食後口腔ケアを行い、嚥下傷害による肺炎の防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切に、リハビリパンツ、パットも利用者に合わせてけんとうしております。チェック表やボードを利用し尿意の無い利用者にはトイレ誘導を定期的に行っております。	食前食後、就寝前、排泄パターンに基づきトイレ誘導されており、誘導時及び失禁時の声掛けもプライバシーを尊重し支援されている。夜間のトイレ、ポータブル誘導、パット交換は2時間おきに実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をとり、排便のない方には十分な水分補給を行い、下剤を使用する場合は個々の状態に合わせて使用量に気を付けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は火・木・土予備日を日として支援しているが、毎日入浴は可能です。入浴を拒まれる方に対して、声掛けの工夫や対応を行い、異性の職員を嫌がられる入居者に対しては同席職員にて対応しております。	基本は職員1名対応であるが、拒否の強い入居者支援時には2名の職員で支援の場面もある。失禁時はシャワー浴で対応され、菖蒲湯、ゆず湯等楽しみの取組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを調えるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルにして保管し、職員がいつでも見れるようにしている。服薬は確実に行うよう飲み込み確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえようようお願い出来るような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつや軽食を持ってドライブに出かけたり、利用者の希望で買い物に行ったり可能な限り外出の支援を行っています。	衣類購入で近隣スーパーへ出掛けたり、職員の買物に同行される場面もあり、馴染みの美容院、墓参り等、家族の協力を得ながら外出する機会も多い。又、プランに近所の散歩等を取り入れ実行されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で支払いをされる利用者もいらっしゃいますが、ほとんどの方は理解が難しく、お金を所持されておられる方は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されておられる利用者もいらっしゃいます。手紙をご家族様へ出された、お返事を頂く事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに利用者にもお手伝いをして頂き装飾や思い出の写真の掲載をしております。共同の空間はすっきりとした動きやすい導線にしています。	リビング兼食堂は入居者の動線に配慮し、整理整頓が行われており、ソファ2脚を窓側に設置し、入居者は思いおもいに団欒されている。外出が困難な入居者もあり、四季を感じられる様、職員手作りの飾り付けがなされ、温もりのある共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを二組置き多くの方が座れる様にしており、一人で過ごしたり仲の良い方同士がくつろげるスペースとなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やタンス、仏壇、写真や思い出の品が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。	危険物など持込不可な物品については契約時に説明されている。エアコン清掃は担当職員が定期的に行っており、居室の清掃、室温湿度などの管理は朝出の職員が担当し、清潔で過ごしやすい居室づくりに努めていることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、環境整備に努めておりますが、万全とはいかず、職員の見配り、気配りで補っております。		